

(別紙様式2)

## 普及指導員調査研究報告書

課題名：リンドウ定植1年目株の現地適応性の検証

所属名：萩農林水産事務所

担当者氏名：林孝晴、岡崎仁、末廣雅信

### <活動事例の要旨>

阿武萩地域において新たに規導入するリンドウ品種「しなの2号」、「しなの3号」及び「西京の瑞雲」について、定植1年目の生育を調査した。

その結果、定植4ヵ月後以降の株生存率及び抽苔株率は既存品種より高くなり、現地での生育適性があることが確認された。

### 1 普及活動の課題・目標

阿武萩地域の花き生産者で構成される阿北花き部会は、やまぐちオリジナルリンドウの生産振興を図り、市場を通じた安定出荷を目指している。

部会員の一人は、需要期である8～9月に開花する品種として、市販の「しなの2号」、「しなの3号」及びやまぐちオリジナル品種である「西京の瑞雲」の導入が計画されているが、いずれも当該地域では同部会では初めての導入であり、生育適性は不明である。

このため、既に導入されている品種との比較を通じて、新規導入品種の地域適応性について検証する。

### 2 普及活動の内容

#### (1) 調査場所

萩市須佐 圃場1か所

#### (2) 調査品種

新規導入品種「しなの2号」、「しなの3号」、「西京の瑞雲」、及び対照として、「西京の夏空」計4品種

#### (3) 耕種概要

2025年5月16日に「しなの2号」、「しなの3号」を各250本、5月22日に「西京の瑞雲」400本及び「西京の夏空」200本を定植した。

なお、「西京の夏空」は既に地域に導入実績のある品種である。

栽培期間中は慣行の灌水及び肥培管理を行い、7月中旬から8月末までは50%遮光の寒冷紗下で管理した。

#### (4) 調査内容

2025年9月9日に、各品種の生存株数を確認するとともに、抽苔茎数、茎長及び抽苔率を調査した。

### 3 普及活動の成果

#### (1) 定植後の生育の様子

定植から約4ヵ月後の株は、夏場の高温の影響によりロゼット状になるものが多く見られた。

葉色はいずれの品種も同程度に濃くなった(図1)。



図1 4品種における生育の様子(撮影日:2025年9月9日、左上:「西京の夏空」、右上:「西京の瑞雲」、左下:「しなの2号」、右下:「しなの3号」)

## (2) 生育調査結果

定植から約4ヵ月後の株の生存率は、西京品種は8割に達しなかったが、しなの品種は9割を超えていた。

抽苔株率は、西京品種では2割、しなの品種は3割であった。

茎数は、西京品種では1.1~1.3本/株であったのに対し、しなの品種では1.6~1.7本/株と多くなった。

平均茎長は西京品種では35cm以上であったのに対し、しなの品種では約30cmとやや短かった(表1)。

表1 4品種における生育状況

品種	定植苗数	株生存率 (%)	抽苔株率 (%)	1株当たり 茎数(本)	平均茎長 (cm)
西京の夏空	200	76.5	20.3	1.3	35.5
西京の瑞雲	400	78.5	20.4	1.1	36.6
しなの2号	250	95.2	31.9	1.7	29.9
しなの3号	250	91.6	29.7	1.6	29.0

## 4 今後の普及活動に向けて

本調査により、新規導入した「しなのシリーズ」の定植後1年目の株の生育は、株生存率及び抽苔株率の観点から既存の「西京シリーズ」と同等かそれ以上であり、現地での生育適性があることが確認された。

今後は、定植2年目以降の現地適応性を把握するため、草丈、花段数等の切り花品質及び収穫本数について継続的に調査を行う。